

# 定期作況報告（最終）

（第7号 平成15年11月20日）  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

《平成14年》

11月：平年より最高気温は各旬とも各々3.5、3.2、1.9 低く、最低気温は各旬とも各々0.5、2.5、1.3 低かった。平年より降水量は各旬とも各々26.9mm、1.9mm、28.0mm多く、日照時間は各旬とも各々10.7時間、11.0時間、12.2時間少なかった。

12月：平年より最高気温は各旬とも各々1.3、0.1、3.7 低く、最低気温は各旬とも各々2.5、0.8、3.8 低かった。平年より降水量は上旬が13.3mm少なく、中旬、下旬が10.6mm、16.3mm多かった。日照時間は上旬が11.5時間多かったが、中旬、下旬が0.2時間、10.1時間少なかった。

《平成15年》

1月：平年より最高気温は各旬とも各々0.2、0.1、1.4 高く、最低気温は上旬、下旬が0.5、0.7 高く、中旬が1.3 低かった。平年より降水量は上旬、下旬が4.1mm、3.9mm少なく、中旬が1.1mm多く、日照時間は各旬とも各々4.3時間、3.0時間、4.1時間多かった。

2月：平年より最高気温は上旬が1.5 高く、中旬、下旬が1.8、3.3 低く、最低気温は上旬が0.5 高く、中旬、下旬が0.4、7.5 低かった。平年より降水量は各旬とも各々6.4mm、1.1mm、5.8mm少なく、日照時間は各旬とも各々7.5時間、0.6時間、32.0時間多かった。

3月：平年より最高気温は上旬、中旬が0.4、0.9 低く、下旬が1.9 高く、最低気温は上旬が並、中旬が1.9 低く、下旬が1.9 高かった。平年より降水量は各旬とも各々1.9mm、10.3mm、8.0mm少なく、日照時間は上旬が13.8時間少なく、中旬、下旬が13.9時間、16.1時間多かった。

4月：平年より最高気温は上旬、中旬が1.5、2.5 高く、下旬が並、最低気温は上旬が0.7 低く、中旬、下旬が2.3、1.2 高かった。平年より降水量は上旬が11.9mm少なく、中旬、下旬が6.8mm、13.6mm 多く、日照時間は上旬が2.5時間多かったが、中旬、下旬が2.4時間、18.5時間少なかった。

5月：平年より最高気温は各旬とも各々0.4、1.4、3.3 高く、最低気温は上旬、中旬が0.7、0.7 低く、下旬が0.4 高かった。平年より降水量は各旬とも各々1.7mm、3.2mm、27.9mm少なく、日照時間は上旬、下旬が6.1時間、4.9時間少なく、中旬が2.0時間多かった。

6月：平年より最高気温は各旬とも各々2.8、2.8、2.1 高く、最低気温は上旬が0.3 低く、中旬、下旬が1.9、1.0 高かった。平年より降水量は上旬が1.5mm多く、中旬、下旬が1.5mm、7.5mm 少なく、日照時間は上旬、下旬が27.9時間、4.7時間多く、中旬が14.0時間少なかった。

7月：平年より最高気温は上旬が1.3 高く、中旬、下旬が2.1、2.6 低く、最低気温は各旬とも各々2.1、2.4、4.9 低かった。平年より降水量は各旬とも各々19.5mm、25.0mm、62.5mm 少なく、日照時間は上旬、下旬が17.1時間、23.5時間多く、中旬が7.6時間少なかった。

8月：平年より最高気温は上旬、下旬が0.1、1.0 低く、中旬が0.4 高く、最低気温は上旬、中旬が1.4、0.2 高く、下旬が1.2 低かった。平年より降水量は上旬が58.5mm 多く、中旬、下旬が17.2mm、3.9mm 少なく、日照時間は上旬、下旬が16.2時間、17.4時間 少なく、中旬が8.9時間 多かった。

9月：平年より最高気温は上旬、下旬が0.7、0.6 低く、中旬が0.1 高く、最低気温は上旬、下旬が0.9、0.9 低く、中旬が0.2 高かった。平年より降水量は上旬、下旬が47.6mm、29.8mm少なく、中旬が0.2mm多く、日照時間は上旬、中旬が8.5時間、15.0時間少なく、下旬が4.3時間多かった。

10月：平年より最高気温は上旬が並、中旬が1.4 低く、下旬が0.4 高く、最低気温は上旬が2.1 低く、中旬、下旬が0.5、1.9 高かった。平年より降水量は上旬が15.0mm少なく、中旬、下旬が0.6mm、49.2mm多く、日照時間は上旬、下旬が15.8時間、4.4時間多く、中旬が10.4時間少なかった。

根雪終は4月12日で、平年並となり、積雪期間が平年より10日長かった。耕鋤始は4月17日で平年より6日早かった。晩霜は5月11日で、平年より4日早かった（表1）。

平成14年11月から平成15年10月までの気象は表2の通りである。

表1 季節

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)
本年	10.15	10.30	11.14	4.12	150	4.19	4.17	5.11
平年	10.11	10.21	11.24	4.12	140	4.25	4.23	5.15
比較	4	9	10	0	10	6	6	4

注1) 本年は平14～15年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始は比布園場の観測値。平年は平成6～14年(9か年)の平均値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川市の観測値。平年は過去10か年の平均値。

4) 印は平年に比べて早いおよび短いを示す。

## 表 2 平成 15 年度気象表

年 月 旬	最高気温( )			最低気温( )			平均気温( )			降水量( mm )			降水日数(日)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
2002 上	4.4	7.9	3.5	-0.5	0.0	0.5	1.8	3.9	2.1	64.0	37.1	26.9	8.0	6.3	1.7	10.6	21.3	10.7	
	11 中	1.5	4.7	3.2	-4.5	-2.0	2.5	-1.2	1.4	2.6	42.0	40.1	1.9	9.0	6.7	2.3	5.5	16.5	11.0
	下	0.8	2.7	1.9	-4.9	-3.6	1.3	-1.6	-0.5	1.1	65.0	37.0	28.0	9.0	6.9	2.1	6.7	18.9	12.2
12 上	-2.1	-0.8	1.3	-9.5	-7.0	2.5	-5.3	-3.7	1.6	17.0	30.3	13.3	7.0	7.6	0.6	28.0	16.5	11.5	
	12 中	-3.4	-3.3	0.1	-10.4	-9.6	0.8	-6.3	-6.2	0.1	41.5	30.9	10.6	9.0	8.1	0.9	12.9	13.1	0.2
	下	-6.9	-3.2	3.7	-14.1	-10.3	3.8	-9.9	-6.4	3.5	41.0	24.7	16.3	10.0	7.5	2.5	8.5	18.6	10.1
2003 上	-4.0	-4.2	0.2	-12.0	-12.5	0.5	-7.6	-7.9	0.3	18.0	22.1	4.1	7.0	7.0	0.0	22.0	17.7	4.3	
	1 中	-5.3	-5.4	0.1	-15.3	-14.0	1.3	-9.0	-9.3	0.3	17.0	15.9	1.1	8.0	6.0	2.0	25.3	22.3	3.0
	下	-3.9	-5.3	1.4	-13.6	-14.3	0.7	-8.2	-9.3	1.1	18.5	22.4	3.9	5.0	6.7	1.7	35.0	30.9	4.1
2 上	-3.1	-4.6	1.5	-13.2	-13.7	0.5	-7.5	-8.7	1.2	8.5	14.9	6.4	5.0	5.8	0.8	42.2	34.7	7.5	
	2 中	-5.2	-3.4	1.8	-13.3	-12.9	0.4	-9.0	-7.6	1.4	16.0	17.1	1.1	5.0	6.6	1.6	36.0	35.4	0.6
	下	-4.5	-1.2	3.3	-18.7	-11.2	7.5	-11.9	-6.0	5.9	1.0	6.8	5.8	1.0	2.4	1.4	67.9	35.9	32.0
3 上	-1.4	-1.0	0.4	-11.4	-11.4	0.0	-5.8	-5.8	0.0	15.5	17.4	1.9	4.0	5.3	1.3	34.7	48.5	13.8	
	3 中	0.4	1.3	0.9	-9.9	-8.0	1.9	-4.8	-2.9	1.9	6.5	16.8	10.3	3.0	5.5	2.5	59.2	45.3	13.9
	下	5.1	3.2	1.9	-3.9	-5.8	1.9	0.6	-1.1	1.7	10.5	18.5	8.0	3.0	4.7	1.7	65.5	49.4	16.1
4 上	8.0	6.5	1.5	-3.5	-2.8	0.7	2.3	2.0	0.3	4.0	15.9	11.9	2.0	4.2	2.2	56.9	54.4	2.5	
	4 中	12.1	9.6	2.5	1.8	-0.5	2.3	6.8	4.4	2.4	26.0	19.2	6.8	4.0	3.4	0.6	48.4	50.8	2.4
	下	13.6	13.6	0.0	2.7	1.5	1.2	8.5	7.4	1.1	29.5	16.0	13.5	4.0	3.0	1.0	34.1	52.6	18.5
5 上	15.5	15.1	0.4	2.5	3.2	0.7	9.1	9.0	0.1	29.5	31.2	1.7	2.0	4.1	2.1	49.1	55.2	6.1	
	5 中	19.0	17.6	1.4	5.1	5.8	0.7	11.9	11.6	0.3	16.0	19.2	3.2	2.0	3.1	1.1	55.8	53.8	2.0
	下	23.1	19.8	3.3	8.8	8.4	0.4	15.5	13.9	1.6	3.5	31.4	27.9	2.0	4.0	2.0	50.3	55.2	4.9
6 上	22.4	19.6	2.8	8.6	8.9	0.3	15.6	14.0	1.6	27.5	26.0	1.5	3.0	4.1	1.1	78.7	50.8	27.9	
	6 中	24.7	21.9	2.8	13.0	11.1	1.9	18.8	16.2	2.6	17.0	18.5	1.5	2.0	2.7	0.7	38.8	52.8	14.0
	下	24.7	22.6	2.1	13.0	12.0	1.0	18.3	17.1	1.2	13.5	21.0	7.5	2.0	2.9	0.9	54.7	50.0	4.7
7 上	25.2	23.9	1.3	12.3	14.4	2.1	18.3	18.9	0.6	17.5	37.0	19.5	2.0	4.0	2.0	57.6	40.5	17.1	
	7 中	23.3	25.4	2.1	13.2	15.6	2.4	17.5	20.2	2.7	22.0	47.0	25.0	3.0	4.7	1.7	40.5	48.1	7.6
	下	24.2	26.8	2.6	12.7	17.6	4.9	17.7	21.7	4.0	10.5	73.0	62.5	1.0	5.5	4.5	68.0	44.5	23.5
8 上	25.6	25.7	0.1	17.6	16.2	1.4	21.3	20.7	0.6	95.5	37.0	58.5	5.0	4.3	0.7	34.4	50.6	16.2	
	8 中	25.5	25.1	0.4	16.1	15.9	0.2	20.1	20.1	0.0	23.0	40.2	17.2	3.0	4.5	1.5	53.6	44.7	8.9
	下	24.0	25.0	1.0	14.3	15.5	1.2	18.9	19.8	0.9	48.5	52.4	3.9	3.0	4.5	1.5	32.5	49.9	17.4
9 上	22.5	23.2	0.7	12.2	13.1	0.9	17.1	17.8	0.7	9.0	56.6	47.6	4.0	4.5	0.5	45.0	53.5	8.5	
	9 中	20.6	20.5	0.1	11.0	10.8	0.2	15.4	15.4	0.0	52.5	52.3	0.2	5.0	5.5	0.5	28.9	43.9	15.0
	下	18.4	19.0	0.6	7.5	8.4	0.9	12.4	13.3	0.9	21.0	50.8	29.8	4.0	5.8	1.8	53.2	48.9	4.3
10 上	15.9	15.9	0.0	4.2	6.3	2.1	9.5	10.7	1.2	30.5	45.5	15.0	5.0	5.7	0.7	51.4	35.6	15.8	
	10 中	12.7	14.1	1.4	4.3	3.8	0.5	8.3	8.8	0.5	32.5	31.9	0.6	7.0	5.7	1.3	27.9	38.3	10.4
	下	12.3	11.9	0.4	4.4	2.5	1.9	8.2	6.8	1.4	87.5	38.3	49.2	7.0	5.1	1.9	39.3	34.9	4.4

- 1) 比布アメダス観測値。
- 2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。
- 3) 印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

1) 水 稲 : 不 良

事 由:

出芽器使用による出芽の揃いは概ね良好で、その後の苗の生育も順調であった。移植時の苗素質は、中苗が概ね平年並み、成苗は平年をやや上回った。

移植（5月19日）後の天候は良く、活着は良好であった。その後も好天が続いたため生育は良好であった。6月中旬の時点では、中苗、成苗とも主稈葉数は平年より多く、 $m^2$ 当たり茎数は平年を大幅に上回った。草丈も平年をかなり上回った。

幼穂形成期は中苗、成苗とも平年より1週間ほど早く、止葉期は平年対比で5~6日早かった。しかしながら、7月中旬の低温により生育は緩慢となった。7月中旬の時点では、主稈葉数は中苗、成苗とも平年よりやや少なく、 $m^2$ 当たり茎数および草丈はほぼ平年並であった。

出穂期は平年に比べ中苗で1~2日、成苗で3日早かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は中苗、成苗とも平年に比べ1日短かった。最終止葉葉数は中苗、成苗とも平年より少なかった。稈長はかなり短かく、穂長は中苗「きらら397」が平年よりやや長かったものの、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」はやや短かった。

成熟期は平年に比べ中苗「きらら397」が1日遅かったが、中苗「ほしのゆめ」は2日、成苗「きらら397」は4日早かった。登熟日数は平年並かやや長かった。

[籾数] $m^2$ 当たり穂数は中苗2品種では平年並からやや多かったが、成苗「きらら397」は平年よりやや少なかった。一穂籾数は平年対比73~86%でかなり少なかった。 $m^2$ 当たり籾数（ $m^2$ 当たり穂数×一穂籾数）は30,000粒を下回り、平年対比74~84%で大幅に少なかった。

[稔実歩合・稔実籾数]中苗「きらら397」の稔実歩合は88%で平年よりやや低く、中苗「ほしのゆめ」は平年並であった。成苗「きらら397」の稔実歩合は83%で平年よりかなり低かった。よって、 $m^2$ 当たり稔実籾数（ $m^2$ 当たり籾数×稔実歩合）は23,000粒前後となり、平年対比75~81%で大幅に少なかった。

[登熟歩合・ $m^2$ 当たり登熟籾数]登熟歩合は中苗、成苗ともに平年を上回った。しかしながら、 $m^2$ 当たり籾数が大幅に少なかったため、 $m^2$ 当たり登熟籾数は22,000粒前後で、平年対比81~89%となった。

[精玄米千粒重]: 中苗、成苗とも平年より重かった。

[精玄米重]粒厚1.90mm以上の収量は平年対比で中苗「きらら397」が77%、中苗「ほしのゆめ」が84%、成苗「きらら397」が85%であった。

[検査等級]中苗、成苗とも1等でほぼ平年並みであった。

以上、いずれの品種・苗も収量が平年を大幅に下回り、品種・苗をこみにした収量は平年対比82%であった。このため、本年の作況は不良である。

表3 平成15年度 水稻の生育および収量

		品種・苗	きらら397・中苗		ほしのゆめ・中苗		きらら397・成苗		
		年次	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
生育期節	播種期	(月・日)	4.16	4.17	4.16	4.17	4.14	4.12	
	移植期	(月・日)	5.19	5.21	5.19	5.20	5.19	5.21	
	幼穂形成期	(月・日)	6.25	7.02	6.23	7.01	6.22	6.29	
	止葉期	(月・日)	7.14	7.19	7.11	7.17	7.10	7.16	
	出穂期	(月・日)	7.27	7.28	7.25	7.27	7.22	7.25	
	穂揃日数	(日)	5	6	5	6	6	7	
	成熟期	(月・日)	9.17	9.16	9.11	9.13	9.11	9.15	
	登熟日数	(日)	52	50	48	48	51	52	
	生育日数	(日)	154	152	148	149	150	156	
苗生育	草丈	(cm)	9.6	9.7	10.2	10.2	11.9	10.2	
	葉数	(枚)	3.1	3.1	3.0	3.2	4.2	3.9	
	地上部乾物重	(g/100本)	2.07	2.08	2.07	2.13	4.72	3.98	
本田生育	主稈葉数	6月10日	(枚)	6.6	5.9	6.4	5.4	7.4	6.2
		6月20日	(枚)	8.6	7.5	8.2	7.3	9.0	7.9
		6月30日	(枚)	9.9	9.2	9.3	9.0	10.2	9.5
		7月10日	(枚)	10.8	10.3	10.1	9.9	10.8	10.5
		7月20日	(枚)	11.0	11.2	10.1	10.7	10.9	11.1
		7月30日	(枚)	11.0	11.2	10.1	10.8	10.9	11.1
	m <sup>2</sup> 当たり茎数	6月10日	(本)	330	171	359	184	494	212
		6月20日	(本)	732	442	760	420	918	495
		6月30日	(本)	968	884	1040	851	1080	888
		7月10日	(本)	1007	986	1021	977	946	973
		7月20日	(本)	898	916	927	918	848	880
		7月30日	(本)	818	790	862	809	820	797
	草丈	6月10日	(cm)	24.1	20.6	26.1	21.8	29.0	22.2
		6月20日	(cm)	31.4	26.4	35.5	27.6	37.6	28.6
		6月30日	(cm)	46.1	38.6	52.9	40.2	51.2	40.5
7月10日		(cm)	56.0	53.3	57.8	57.1	57.4	55.4	
7月20日		(cm)	65.6	65.0	69.4	70.9	68.9	67.9	
7月30日		(cm)	71.9	80.6	75.7	87.9	70.9	81.6	
本田生育	稈長	(cm)	50.7	66.6	54.3	72.9	52.0	66.3	
	穂長	(cm)	17.4	16.6	15.4	16.5	15.2	16.6	
	穂数	(本/m <sup>2</sup> )	741	693	838	756	793	713	
	有効茎歩合	(%)	73.6	70.0	80.6	77.0	73.4	71.4	
収量構成要素	一穂粒数	(粒)	37.3	47.9	33.3	45.8	40.6	47.2	
	m <sup>2</sup> 当粒数	(×1000粒)	28.0	33.2	25.6	34.6	27.6	33.7	
	稈実歩合	(%)	88.1	92.1	92.0	91.3	83.0	91.2	
	m <sup>2</sup> 当稈実粒数	(×1000粒)	24.6	30.6	23.6	31.6	22.9	30.7	
	登熟歩合	(%)	80.9	77.0	84.8	77.8	79.4	78.0	
	m <sup>2</sup> 当登熟粒数	(×1000粒)	22.7	25.6	21.7	26.9	21.8	26.3	
	精玄米千粒重	(g)	23.3	22.5	22.6	22.3	23.5	22.9	
	籾摺歩合	(%)	80.4	79.1	79.2	77.0	81.2	79.5	
収量	層米歩合	(%)	2.8	4.1	3.6	7.3	2.1	5.8	
	藁重	(kg/10a)	621	615	652	639	660	601	
	精籾重	(kg/10a)	569	758	595	749	626	768	
	籾藁比	(%)	92	124	91	123	95	128	
	精玄米重	(kg/10a)	457	594	477	569	513	602	
収量	収量比	(%)	77	100	84	100	85	100	
	検査等級		1	1中下	1	1中下	1下	1中下	

注1) 平年値:「きらら397」は平成8、9、11、12、13年の5か年、「ほしのゆめ」は平成9、11、12、13年の4か年の平均。

2) 千粒重・精玄米重:粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

3) 8月まで生育調査を行っていた圃場が冷害危険期に漏水していたことなどにより不稈粒が特異的に多発生したため、周囲の生育と著しく異なると判断し、9月から調査圃場を別に移した。そのため、9月以降調査の生育、収量調査項目、収量構成要素項目については8月までとは圃場が異なる。また、穂数は8月までの圃場、穂数は9月以降の圃場での調査数値で、収量構成要素項目の算出には穂数の値を使用した。

(2) 秋まき小麦 : 平年並

事由：播種は、平年より8日早い9月5日に行った。越冬前の生育は順調であった。積雪期間は平年より10日長く、雪腐病の発生は平年より多かった。発生菌種は雪腐褐色小粒菌核病が主体であった。5月下旬以降の好天により、生育は雪腐病の被害による遅れを取り戻し、出穂期、成熟期は、ほぼ平年並となった。

稈長は平年を下回ったが、穂長、穂数は平年を上回った。リットル重は平年をわずかに上回り、千粒重は、中生の「タイセツコムギ」では登熟後半の低温で登熟が緩やかに進んだため平年を2.3g上回ったが、この影響を受けなかった早生の「ホクシン」では1.9g下回った。

子実重は両品種とも平年を上回り、特に、千粒重が平年を上回った「タイセツコムギ」が多収を示した。しかし、検査等級は両品種とも形質不良により「規格外」となったため、本年の作況は「平年並」とする。

表4 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		タイセツコムギ			ホ ク シ ン		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	9.5	9.13	8	9.5	9.13	8
出穂期	(月日)	6.12	6.12	0	6.7	6.8	1
成熟期	(月日)	7.21	7.21	0	7.16	7.16	0
越冬莖歩合	(%)	68.3	97.7	29.4	87.8	105.1	17.3
雪腐病発病度		59.4	40.3	19.1	48.4	25.7	22.7
葉数(枚)	H14.10.20	6.3	4.7	1.6	6.7	5.0	1.7
草 丈 (cm)	H14.10.20	37.7	22.2	15.5	35.1	21.3	13.8
	H15.5.20	41.9	41.7	0.2	39.7	41.1	1.4
	H15.6.20	87	91	4	81	91	10
莖 数 (本/ m <sup>2</sup> )	H14.10.20	1872	1053	819	2035	1119	916
	H15.5.20	853	1012	159	1002	1078	76
	H15.6.20	632	637	5	684	674	10
成 熟 期	稈 長 (cm)	79	84	5	74	83	9
	穂 長 (cm)	9.2	8.8	0.4	8.7	8.4	0.3
	穂 数(本/m <sup>2</sup> )	582	528	54	652	595	57
総 重	(kg/10a)	1409	1351	58	1327	1421	94
子実重	(kg/10a)	666	513	153	630	558	72
同上	平年比 (%)	130	100	30	113	100	13
リットル重	(g)	775	764	11	795	777	18
千粒重	(g)	41.6	39.3	2.3	37.2	39.1	1.9
検査等級	(等)	規格外	2中	-	規格外	2上	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年、14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

(3) とうもろこし : 良

事由：播種は平年より2日早い5月9日に行った。播種後、土壌が適湿であったため、出芽期は平年より4日～6日早かった。出芽後、気温が平年より高く推移したため、初期生育は良好で草丈、出葉数とも平年を大きく上回って推移したが、抽糸期は7月中旬～下旬の低温の影響で平年より2日早くなるにとどまった。抽糸期以降、登熟期の気温がほぼ平年並に推移したため、収穫は平年並の9月22日に行なった。収穫時の熟度は平年並であった。

稈長は平年より長く、不稔個体割合は、「キタユタカ」はほぼ平年並であったが、「P3732」は平年より低かった。乾総重は平年を上回り、特に「P3732」で平年を大きく上回った。乾雌穂重は、「キタユタカ」では雌穂の先端不稔が多く、平年を下回ったが、「P3732」は平年を大きく上回った。総体の乾物率は、「キタユタカ」は平年並であったが、「P3732」は平年より高かった。

以上の結果、TDN収量の対平年比は、「キタユタカ」102%、「P3732」は118%となり2品種平均の対平年比は110%となった。

したがって、本年の作況は良である。

表5 とうもろこしの生育および収量

品 種 名		キ タ ユ タ カ			P 3 7 3 2		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5. 9	5.11	2	5. 9	5.11	2
出芽期	(月日)	5.22	5.28	6	5.24	5.28	4
抽雄期	(月日)	7.22	7.25	3	7.30	7.30	0
抽糸期	(月日)	7.28	7.30	2	8. 4	8. 6	2
収穫期	(月日)	9.22	9.22	0	9.22	9.22	0
草 丈 (cm)	6月20日	71	42	29	61	37	24
	7月20日	264	215	49	243	198	45
	8月20日	291	279	12	337	308	29
出葉数 (枚)	6月20日	10.5	7.6	2.9	9.6	7.2	2.4
	7月20日	18.0	16.4	1.6	18.4	16.6	1.8
	8月20日	18.2	17.7	0.5	19.2	18.8	0.4
収 穫 期	稈 長 (cm)	254	245	9	293	268	25
	着雌穂高 (cm)	105	110	5	141	132	9
	熟 度	黄中	黄中	-	黄初	黄初	-
不稔個体割合 (%)		11.7	10.7	1.0	0.0	16.3	16.3
乾総重 (kg/10a)		1819	1754	65	2181	1888	293
乾雌穂重 (kg/10a)		818	779	39	968	738	230
総体の乾物率 (%)		27.4	27.4	0	28.6	26.8	1.8
TDN収量(kg/10a)		1267	1241	26	1529	1297	232
同上平年比 (%)		102	100	2	118	100	18

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

(4) 大豆 : やや不良

事由: 播種は平年より1日遅く、更に播種前後の降雨がほとんど無かったため土壌が乾燥し、出芽は不整一となった。5月30日からの降雨によって、最終的には齊一な出芽をみたが、出芽期は平年より8日遅れた。出芽後は6月下旬まで高温傾向となり生育は進んだが、降雨が少なく土壌は干ばつ気味に経過した。7月に入っても干ばつ傾向は続き、加えて気温が低めに経過したため、生育は停滞気味となった。開花期は平年並から1日遅れとなり、その後の着莢は緩慢であった。低温と降水不足は7月下旬まで続いたが、8月上旬の台風に伴う降雨で生育の回復がみられた。成熟期は「トヨムスメ」で平年より1日早く、「トヨコマチ」では平年より1日遅れた。主莖長は両品種ともほぼ平年並であり、主莖節数は「トヨムスメ」で平年並、「トヨコマチ」では平年を若干上回った。分枝数は両品種とも平年を下回った。両品種とも着莢数は平年を下回ったが、百粒重が平年より重かったため、子実重は平年比95%~102%となった。外觀品質では「トヨムスメ」で裂開粒が発生したため、屑豆率が平年より高くなり、落等した。「トヨコマチ」は屑粒率、検査等級ともに平年並であった。

したがって、本年の作況は「やや不良」である。

表6 大豆の生育および収量

品 種 名		ト ヨ ム ス メ			ト ヨ コ マ チ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1
出芽期	(月日)	6.9	6.1	8	6.9	6.1	8
開花期	(月日)	7.15	7.14	1	7.13	7.13	0
成熟期	(月日)	10.1	10.2	1	9.25	9.24	1
主莖長 (cm)	6月20日	10.4	10.1	0.3	10.9	12.0	1.1
	7月20日	50	53	3	56	60	4
	8月20日	64	61	3	66	64	2
	9月20日	63	61	2	65	64	1
	成熟期	63	62	1	65	64	1
主莖 節数 (節)	6月20日	3.3	3.5	0.2	3.4	4.0	0.6
	7月20日	8.8	10.1	1.3	10.2	10.9	0.7
	8月20日	10.3	10.3	0.0	11.3	10.9	0.4
	9月20日	10.3	10.3	0.0	11.2	11.0	0.2
	成熟期	10.4	10.3	0.1	11.2	10.8	0.4
分枝数 (本 /株)	7月20日	5.6	6.9	1.3	6.4	6.8	0.4
	8月20日	6.6	7.7	1.1	6.9	7.0	0.1
	9月20日	6.4	7.5	1.1	6.8	6.7	0.1
	成熟期	6.5	7.5	1.0	6.5	6.8	0.3
着莢数 (個)	8月20日	79	84	5	81	84	3
	9月20日	61	74	13	70	75	5
	成熟期	64	76	12	69	76	7
子実重 (kg/10a)		410	433	23	419	412	7
同上平年比 (%)		95	100	5	102	100	2
100粒重 (g)		41.8	37.4	4.4	39.0	35.4	3.6
屑豆率 (%)		5.6	1.2	4.4	2.2	1.9	0.3
検査等級 (等)		規格外	3中	-	3中	3中	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び8年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。



(5) 小豆 : 良

事由：播種が平年より1日早かったが、播種後しばらく降雨がなく、土壌が乾燥したため、出芽期は平年より2日遅れた。出芽後、6月下旬までは気温が高めに推移したため生育は進んだが、降雨が少なかったためその後干ばつ傾向となり、更に7月に入ってから気温が低めに経過したことにより、生育はやや緩慢となった。開花期は両品種とも平年並であった。7月下旬までの低温で着莢が遅れ、更に8月中旬以降の気温も平年並からやや低めに経過したため、成熟期は平年より4日遅れた。主茎長は「サホロショウズ」では平年より短かったが、「エリモショウズ」では平年並みとなった。分枝数は両品種とも平年を上回った。着莢数は「サホロショウズ」で平年を若干下回ったが、「エリモショウズ」では平年を上回った。

登熟期間が長かったため、百粒重は両品種とも平年より重くなり、子実重は平年より25%~27%多収となった。屑豆率は両品種とも平年より低かったが、開花・着莢期間が長かったことによる色むらや粒不揃いのため、検査等級は平年を下回った。

したがって、本年の作況は「良」である。

表7 小豆の生育および収量

品 種 名		サホロショウズ			エリモショウズ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.20	5.21	1	5.20	5.21	1
出芽期	(月日)	6.10	6.8	2	6.10	6.8	2
開花期	(月日)	7.21	7.21	0	7.24	7.24	0
成熟期	(月日)	9.8	9.4	4	9.13	9.9	4
主茎長 (cm)	6月20日	5.9	3.5	2.4	6.8	3.9	2.9
	7月20日	25	26	1	25	25	0
	8月20日	53	64	11	62	59	3
	成熟期	52	64	12	62	60	2
本葉数 (枚)	6月20日	1.5	0.8	0.7	1.3	0.7	0.6
	7月20日	7.4	7.4	0.0	7.7	7.7	0.0
	8月20日	10.8	10.8	0.0	12.1	11.2	0.9
分枝数 (本/株)	7月20日	5.7	5.6	0.1	5.3	5.6	0.3
	8月20日	6.7	6.3	0.4	6.4	6.5	0.1
	成熟期	6.4	5.3	1.1	6.0	5.4	0.6
着莢数 (個)	成熟期	56	59	3	64	58	6
子実重 (kg/10a)		450	359	91	450	355	95
同上平年比 (%)		125	100	25	125	100	27
100粒重 (g)		16.1	14.4	1.7	13.9	12.8	1.1
屑豆率 (%)		1.6	3.2	1.6	1.4	2.5	1.1
検査等級 (等)		3中	2上	-	4上	2中	-

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成11年(最凶)、平成12年(参考)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

(6) ばれいしょ 作 況 : 良

事 由：植付けは平年より2日早かったが、萌芽期はほぼ平年並となった。5月下旬～6月中旬までの平均気温は平年より高めに経過し、降水量は5月下旬が少なかったものの6月に入りほぼ平年並となり、開花始、茎長とも平年をやや上回った。

6月下旬から7月下旬までの降水量は平年より少なく、ほ場は干ばつ気味となった。このため、「男爵薯」ではほぼ平年並の茎長であったが、「農林1号」の茎長は平年を若干下回った。

「男爵いも」では、7月第5半旬に倒伏が始まり、第6半旬にはほとんどの株が倒伏に至り、8月に入ってから茎葉の黄化・枯葉が徐々に進行したが、8月上旬にまとまった降雨があり、また8月の気温が平年に比べ低く経過したことから茎葉の枯凋は進まず、平年に比べ8日遅く枯凋期となった。

「男爵いも」の10a当たり上いも収量は平年より699kg多く、平年対比115%と多収であった。また、中以上いも収量も平年対比124%と多収で、でん粉価も平年より高い17.2%であった。

「農林1号」の10a当たり上いも重は6785kgで、平年対比123%と高く、でんぷん価、でんぷん重とも平年を大きく上まわった。このように、早生種ならびに晩生種とも多収となった。

したがって、本年度の作況は「良」である。

表8 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		農 林 1 号			男 爵 薯		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
植付期	(月日)	5. 6	5. 8	2	5. 6	5. 8	2
萌芽期	(月日)	5.25	5.25	0	5.26	5.25	1
開花始	(月日)	6.19	6.23	4	6.20	6.23	3
枯凋期	(月日)	9.27	-	-	8.31	8.23	8
茎 長 (cm)	6月20日	38.2	33.3	4.9	35.6	32.0	3.6
	7月20日	58.1	67.3	9.2	41.9	40.4	1.5
	8月20日	59.7	79.5	19.8	-	-	-
上いも重(kg/10a)		6785	5495	1290	5217	4518	699
中以上いも重(kg/10a)		6448	4910	1538	4683	3791	892
でん粉価(%)		17.2	15.0	2.2	15.5	13.7	1.8
でん粉重(kg/10a)		1101	780	321	754	574	180
対平年比	上いも重	123	100	23	115	100	15
	中以上いも重	131	100	31	124	100	24
	でん粉重	141	100	41	131	100	31

注1) 平年値は前4か年の平均値

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

(7) てんさい 作 況 : 良

事 由：播種期は平年より1日早い3月26日に行った。発芽期は平年より1日早くなったものの、発芽の揃いは劣った。移植は平年より4日早い5月2日に行った。移植期前後の降雨と移植後の平均気温が平年並に経過したことから、活着ならびに移植後の生育は良好で、草丈、生葉数とも平年を若干上回った。5～6月の平均気温はやや高めに経過し、引き続き生育は順調であった。

6月下旬から7月中旬までの降水量は平年より少なく、ほ場は干ばつ気味となり、草丈、葉数とも平年を下回った。

8月上旬にまとまった降雨があり、根部の肥大が進んだが、8～9月の平均気温、降水量、日照時間は平年並～下回って推移したことから草丈は低く、生葉数も平年を下回った。

収穫は平年より3日遅い10月20日で、茎葉重は平年対比73%と低かったが、根重は平年対比109%、根中糖分は110%、糖量は120%となり多収となった。

したがって、本年度の作況は「良」である。

表9 てんさいの生育および収量

品 種 名		モ ノ ホ マ レ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	3.26	3.27	1
発芽期	(月日)	4.4	4.5	1
移植期	(月日)	5.2	5.6	4
収穫期	(月日)	10.20	10.17	3
草 丈 (cm)	5月20日	7.7	5.6	2.1
	6月20日	38.3	34.2	4.1
	7月20日	45.3	58.0	12.7
	8月20日	46.4	61.8	15.4
	9月20日	46.6	61.4	14.8
生葉数 (枚/株)	5月20日	4.8	4.1	0.7
	6月20日	13.9	13.0	0.9
	7月20日	20.0	23.5	3.5
	8月20日	23.9	28.4	4.5
	9月20日	28.9	31.7	2.8
根 周 (cm)	7月20日	23.9	23.3	0.6
	8月20日	31.5	28.7	2.8
	9月20日	35.9	33.1	2.8
茎葉重	(kg/10a)	3935	5395	1460
根重	(kg/10a)	8188	7479	709
根中糖分	(%)	18.4	16.8	1.6
糖量	(kg/10a)	1501	1248	253
対平年比	根重	109	100	9
	根中糖分	110	100	10
	糖量	120	100	20

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

表10 各作物の耕種概要  
水稲

苗	苗種類	播種量(乾粒重) (g/箱、枠)				施 肥 量 (g/m <sup>2</sup> )			
						N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	N追肥(g/箱)
代	中苗マット	100				6.0	12.0	10.2	1 + 1
	成苗ポット	35				3.0	7.2	3.0	-
	("置き床)	-				(27)	(34)	(18)	-
本	苗種類	畦巾 (cm)	株間 (cm)	1株 本数 (本)	株数 (株/m <sup>2</sup> )	施 肥 量 (Kg/10a)			
						N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	堆肥
田	中苗マット	33.3	12.0	4	25	9.0	11.0	8.0	1000
	成苗ポット	33.3	12.0	3	25	9.0	11.0	8.0	1000

畑作物

作物名	前作物	畦巾 cm	株間 cm	1株 本数 (本)	播種 粒数 本/m <sup>2</sup>	株数 (株/ 10a)	施 肥 量 (Kg/10a)				
							N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	堆肥
秋まき小麦	緑肥ひまわり	30	-	-	255	-	4.0+6.0	10.0	6.0	2.5	-
とうもろこし	春まき麦類	60	22	1	-	7576	10.0+2.0	18.0	12.0	3.0	-
大豆	秋まき小麦	60	20	2	-	8333	1.8	10.2	9.0	2.5	-
小豆	秋まき小麦	60	20	2	-	8333	3.0	12.0	7.0	3.0	-
ばれいしょ	キャブ、レタ	75	30	1	-	4444	9.6	19.2	13.4	4.8	-
てんさい	秋まき小麦	60	23	1	-	7246	11.0	15.6	10.1	3.7	-